

野球などスポーツの応援歌を多く作っていた古関だが、実はスポーツがあまり得意ではなかったそう。

苦しい戦争が終わり、古関にひとつの作曲依頼が舞い込む。

これからの日本を背負う若者を

応援するような曲を作ってもらえませんか？

曲の依頼は、全国高等学校野球大会のテーマ曲だった。

誰かを応援する曲か…？

そうだ、聴く人に勇気や元気を与える。

それがその音楽の役割じゃないか!!

お父さん!!! 危ないっ!! ボール!!

お父さん!! こんなところで作曲するの!?

古関が作曲した全国高等学校野球大会のテーマ曲「栄冠は君に輝く」は戦後の日本に元気を与えていった。

古関は、他にもタイガースの応援歌「六甲おろし」やジャイアンツの応援歌「闘魂こめて」など多くの応援歌を作曲している。

お父さんって本当に作曲家なんだよね…。

そうよ! なんで?

だって、楽器も使わずにどうやって曲を作るの?

お父さんの頭の中ではちゃんとメロディーが鳴っているのよ!

そして、1964年

戦後の日本にとって特別なイベントである東京オリンピックが開催された。

さあ、いよいよ、選手入場です!

古関は行進曲「オリンピック・マーチ」を作曲。

あなた、始まるわね!

なんだか…緊張するよ…帰ろうかな…



あなた! 見て!

うん…すごいよ。すごいね。

「オリンピック・マーチ」は最後の一節に「君が代」のメロディーを入れ、日本開催であるということを印象的にしたのです。